

町民運動から25年、川尻地区の加勢川改修、完成まじか！

お蔵の前船着き場・新幹線・中無田閘門と合わせたように本年度に完成します。

河陽新聞

熊本市南部地区市民の会
発行責任者 村田幸博

吉村市郎（同会の初代会長）へご報告。 川の風景が蘇りました。

南部地区市民の会は、昭和61年4月10日夜川尻公会堂で行われた「加勢川の河川改修に対する地元住民の要望」が切っ掛けで設立されました。四半世紀（25年前）の出来事です。

今のお蔵の前船着き場は加勢川が流れていました。しかし、本来は緑川本流が流れ緑川の豊富な水量と有明海の潮位（干満の差）を自然に恵まれた条件を基盤に川港が整備され、800年の歴史がありました。

船着き場は川尻の歴史であり源とも言えます。

昔の緑川は、大慈禅寺の前より川尻バイパス杉島交差点より大渡の西側を流れ、川尻お蔵の前へと流れていました。

坂本竜馬が活躍した江戸時代が終わり、明治の時代になると西欧の文化と共に物流も大きく変わり、三角西港が構築され鉄道輸送がはじまり川の水運を使った時代に大きな変化が起き始めました。

この事は緑川に限らず菊池川の高瀬（玉名）や坪井川の高瀬も同じで、その後、川は舟運時代から稲作の為に治水目的、また、洪水を防ぐ治水工事重視の時代を迎えました。

今から100年前の時代大正から昭和初期、川尻も緑川も大改修が行われました。

さらに、昭和の末から平成の河川改修で上記写真の川尻に成りました。

昭和の時代、加勢川の河川改修は川幅を倍以上に広げ全面コンクリート張りの7m前出し護岸整備の計画でした。

当時の自治会連合会・吉村市郎会長をはじめ、当時婦人会長の安浪昭子さん、さらに、各種団体代表や川尻校区の有志が川尻公会堂に集まり、「川尻の発祥地であり全国的にも貴重な歴史護岸や川の風景を伝え残す」決議がなされました。

あれから25年、当時夢のような計画であった九州新幹線も開通し、当時は取り壊される計画の中無田閘門（こうもん）も再整備が施され、今年同時に完成しました。

吉村市郎会長はじめ、今は亡き多くの先人の皆さま「本当に、ありがとうございました。」とご報告いたします。

誇れる川尻校区の歴史と風景を後世に残す事が出来ました。また、近年は若者たちが立ち上がり、色々な取り組みを始めました。歴史の舞台は残り「また」ご報告致します。

熊本市南部市民の会は、今後も「川尻校区の暮らしを大切に町づくり」をめざし頑張ります。

合掌



南部地区市民の会、今年度のテーマとして「新幹線から見た町づくり・川づくり・風景づくり」を目標にかかげ取り組んできました。

4月から検討会を重ね5月27日に関係する国交省・県・市関係、それに新幹線対策室などの専門家を含め21名で検討委員会を開き、目標や課題を具体的に方策が検討されました。

また、新幹線の高架橋から見た場合、川尻校区や加勢川緑川がどのように見えるのか？窓から見える距離など考える必要がある事も判明しました。

新幹線の高さは15m窓はさらに3mほど高く国道3号線の緑川橋の上を大型バスの窓から眺める風景によく似た事を知りました。

以外にレールに近い方は見えず、川尻であれば

ズイオウ酒造工場ビルや加勢川の新町橋周辺風景が川尻らしい風景を醸し出す事も判りました。

そこで、川尻小学校「緑の少年団」はシダレヤナギを30本植える計画、川尻校区婦人会は菜の花の種を蒔く事を図り、国土交通省緑川下流出張所は、加勢川新町橋左岸下流を整地し、十一月七日、56名が参加して植樹が行われました。

話は戻りますが、新幹線も開通し3月末には加勢川の歴史護岸の全貌も中無田閘門も完成します。多くの方々が眺められる事をお願いいたします。

残念ながら、婦人会が蒔かれた菜の花の種は、加勢川へ飛来している多くのカモのエサとなってしまうましたが、川尻小の子供たちが植えたシダレヤナギは芽を出し、新レヤナギ・加勢川の風景を描きはじめました。

今後は、新幹線から眺める風景だけでなく、川尻校区の誇れる風景や環境づくりへつながって行くものと期待しています。

今回の東北関東大震災や阪神淡路災害を経験し、地域社会のあり方が問われています。

川尻校区は、自治会をはじめ消防団・防犯協会・社協・青少協婦人会など活発に活動され、本当に暮らしてみたい町になりつつあります。

今年度の東北関東大震災や阪神淡路災害を経験し、地域社会のあり方が問われています。

川尻校区は、自治会をはじめ消防団・防犯協会・社協・青少協婦人会など活発に活動され、本当に暮らしてみたい町になりつつあります。

平成22年、度南部地区市民の会の報告 新幹線から見た風景づくり



3月12日九州新幹線は無事に開通しました。しかし、その前日には私たちが見た事も遭遇した事もない巨大津波と未曾有の状況を目にし、東北関東大震災にあわれた多くの方へお見舞い申し上げます。日と変わりました。

話題を戻しますが、新幹線も開通し3月末には加勢川の歴史護岸の全貌も中無田閘門も完成します。多くの方々が眺められる事をお願いいたします。

残念ながら、婦人会が蒔かれた菜の花の種は、加勢川へ飛来している多くのカモのエサとなってしまうましたが、川尻小の子供たちが植えたシダレヤナギは芽を出し、新レヤナギ・加勢川の風景を描きはじめました。

今後は、新幹線から眺める風景だけでなく、川尻校区の誇れる風景や環境づくりへつながって行くものと期待しています。

今回の東北関東大震災や阪神淡路災害を経験し、地域社会のあり方が問われています。

川尻校区は、自治会をはじめ消防団・防犯協会・社協・青少協婦人会など活発に活動され、本当に暮らしてみたい町になりつつあります。

川尻公会堂で 正月三日は成人式

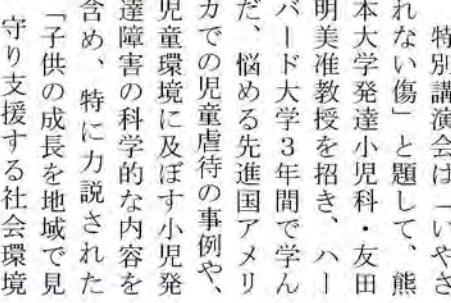
毎年、正月三日11時から、川尻公会堂にて川尻校区の成人式が開催されています。

これは昭和28年から始められ今年で57回目を迎えています。川尻校区公民館主催で呼びかけられ校区内の各種団体から多くの方が列席され、総勢200名を超えます。

今どきのテレビや新聞で報じられている成人式とは異なり、川尻小学校の名簿を元に各町内ごとに成人者の名前が読み上げられ、大きな返事と共に起立すると、どよめき

や笑いが漂います。それは、子供の時の雰囲気が残る人々の間に大きな変化を見せる人などが話題を醸し出しているようで、川尻で恒例の伝統行事として受け継がれています。

祝賀の料理は、毎年、婦人会の手づくり料理です。



2月13日、川尻校区青少年健全育成協議会（川尻青少協）設立30周年を記念する特別講演会や記念会が、川尻公会堂で行われました。

特別講演会は「いややれない傷」と題して、熊本大学発達小児科・友田明美准教授を招き、ハーバード大学3年間で学んだ、悩める先進国アメリカでの児童虐待の事例や、児童環境に及ぼす小児発達障害の科学的な内容を含め、特に力説された「子供の成長を地域で見守り支援する社会環境

「女性」が安心して暮らせる町づくり」をテーマに、今年度は「新幹線から眺める風景づくり」がかけ、6回の機関紙発行やアンケートの実施を行ないました。

今回の東北関東大震災を通じ、過去の時代の出来事や伝承話が、いかに重要であるかも知る事となりました。

次年度からは新たなスタッフを求め、地域の伝承文化を描けないか悩んでいます。

新生南部市民の会となり2年間が経過しました。昨年は「女性」が安心して暮らせる町づくり」をテーマに、今年度は「新幹線から眺める風景づくり」がかけ、6回の機関紙発行やアンケートの実施を行ないました。

今回の東北関東大震災を通じ、過去の時代の出来事や伝承話が、いかに重要であるかも知る事となりました。

次年度からは新たなスタッフを求め、地域の伝承文化を描けないか悩んでいます。

新聞づくりのスタッフを探しています。